

大阪ガス「住宅設計アワード 2012」特別賞 受賞しました。



■和室4.5畳



■和室4.5畳より庭を見る

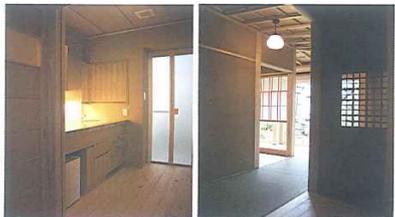


■玄関(外)

■玄関(内)

床廻り: 床柱/北山杉面皮丸太
中柱/桜丸太
床框/桧錆丸太
地板/タモ

天井/杉紐+柵+竹+網代杉



■水廻り諸室

■水廻りより玄関を見る



■庭側・外観(可動雨戸は格子状で通風が可能)



■玄関〜入り側・天井廻りを見る

壊さず・残した建物の活用 = 納屋から茶室のある離れへ

本コンテストのテーマ「ガスのある環境にやさしい住まい」とは？

いまだに蔓延る住宅建築を取り巻く現状「スクラップアンドビルド+ホブレカット加工」万世の反省から、建築主による「壊さず・残した」建物の活用をテーマにして、環境(まちなみ景観+伝統技能)にやさしい(保存+継承)と読み解き、本事例を提案する。

以前の建物は、この地方(泉州)に今尚多く見られる伝統民家(しこ建て)の「納屋」として建てられ、一時書道教室に改装されたが近年は利用していない状況であった。近隣神社の祭事・秋祭り(だんじり祭り)に建築主の知人を招いた時や将来において独立されたご子息たちの帰省の折に休憩・宿泊が出来るゲストハウス「茶室のある離れ」としてリフォームを行なった。

リフォームを行なう場合、小規模な工事を繰り返すのではなく一度スケルトンに戻すことが重要と思う。予想された虫害による構造材の不具合や耐力不足が多く確認され、根継ぎや土台の取替え、軸組み補強などを行ない今後数十年の利用が可能である。建て替えてではなく、主体構造材など多くを再利用することでCO2排出削減となり地球環境にもやさしい。

用途上不定期かつ不特定な建物の使用を考えた場合、瞬時且つ連続した給湯が可能な熱源はガスが最適と思い採用した。

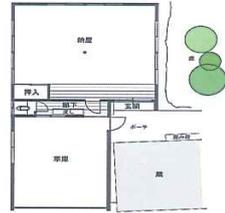
今回の工事は、地場の木材を使いこなす伝統の「技」をもった大工と指物師の協力が得られたことで成し得た。だが昨今のプレカット依存による木加工の中で育った大工ではまず不可能と感じさせられた仕事であった。ちなみに見え掛かり仕上げの「既製品」の使用は設備機器を除き、床脇の地窓障子のアルミサッシ1枚と建具の硝子くらいであり、ほぼ手作りによるものである。

極々普通の建物から伝統的和風意匠への改造は、建築主のみならず、設計者、施工者にとって技能継承を得ることが出来た、「小さくて大きい」貴重な工事であった。

指物: 玄関格子戸・室内引戸・障子・換縁/木頭杉、硝子戸・格子雨戸・網戸/吉野塗、透かし欄間/吉野杉、書院机/タモ、水屋家具/タモ網代、トイレ家具/ローズウッド、エアコングリル/矢竹、下駄箱/木頭杉、水屋フローリング/土佐樟等。



改修前



改修後

■改修前



■納屋内部(改造後中央柱手前8畳奥4.5畳)



■玄関

■廊下・流し



■庭側・外観

向いにある母屋はこの地方の民家伝統意匠を残し耐震補強を行った改造工事により、(財)リフォームセンターによるリフォームコンクールで“総合部門優秀賞”を受賞。同じ敷地内で時を経て伝統民家・数奇屋建築で二つの“賞”を頂きました。これからも土地に根ざした“和のしつらえ”を大事にした設計が出来ればと思います。